



【読書】キャラクター「おっほん」

# 札幌市立北白石小学校

## 読書活動の取組

### 読書センターとしての機能

【担任以外の先生と出会う、新しい本の世界】



本校では、児童が生涯にわたって読書を愛好する習慣を養うため、多様なアプローチで

本との出会いを演出しています。その中核となるのが、年2回実施している「全校読み聞かせ」です。学級担任以外の教員が読み手となることで、新しい分野の本を知る貴重な機会となっています。

【図書委員が広げる「本って楽しい」のバトン】

また、児童主体の活動として、図書委員による読み聞かせを実施しました。さらに、館内に「図書委員のおすすめ本紹介」コーナーを設置。大人の選書とは異なる等身大のメッセージが、子どもたちの知的好奇心を強く刺激していました。



### 学習センターとしての機能

【「教科書の続き」がある図書館】

学校図書館は「授業の第2の教室」であり、各教科のねらいを達成するための強力なリソースです。今年度は特に、国語・社会・理科の各単元に直結する資料の充実を図りました。国語の教科書に掲載されている関連作品を購入・整備し、「教科書に出てくる本」コーナーを充実させました。授業で興味をもったテーマや作家について、児童がその熱量のまま図書館へ足を運び、さらなる深掘りができる環境を整えています。

この取組により、教科書という「点」の知識が、関連図書を通じた「線」や「面」の学びに広がる成果が見られました。児童が「図書館に行けば、学びがより深まる」と実感できるような、学習の心臓部としての機能を追求しています。



### 情報センターとしての機能

【自分で見付ける喜びを。自立を促す「しかけ」】

本校では、自ら情報を取捨選択し、活用するその基礎力を養うため、日本十進分類法（NDC）を「知識の地図」として活用する指導を行っています。児童からの「〇〇の本はどこ？」という質問には、直接本を渡すのではなく「それは4番（自然科学）の棚にあるよ。」と、分類番号をヒントにガイドしています。

また、情報の探索をより円滑にするため、館内の案内板には、分類番号と文字情報だけでなく、各分野を象徴するイラストを併記しています。これにより、特定のキーワードを知らなくても「動物の絵があるから、ここには生き物の本があるはずだ。」と予測を立てて行動する力が育まれます。自分の力で目的の情報にたどり着く喜びを体験させることで、自立した学習者の育成を目指しています。

